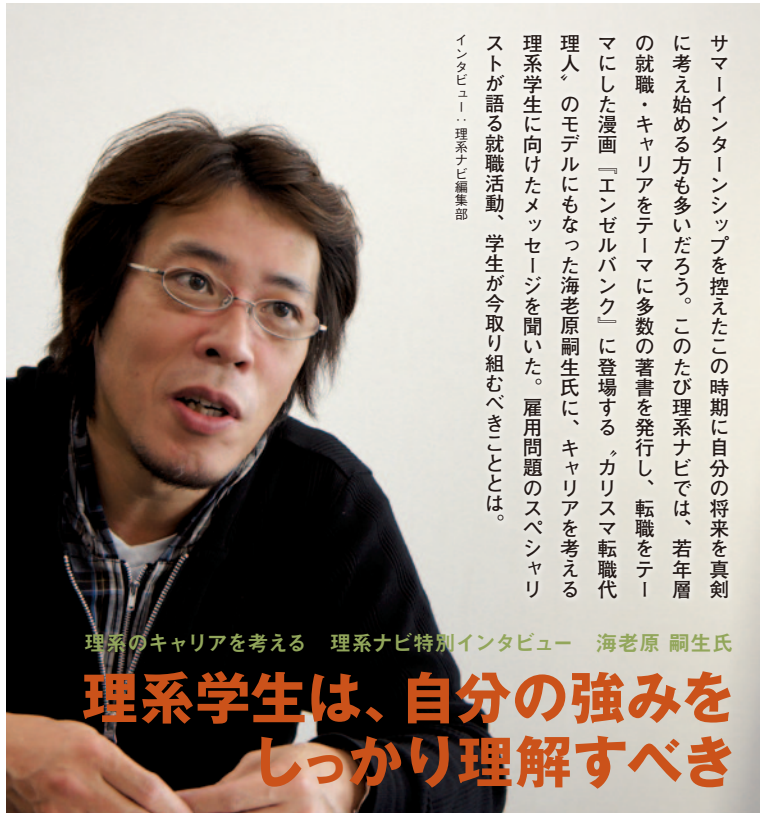


サマーインターシップを控えたこの時期に自分の将来を真剣に考え始める方も多いだろう。このたび理系ナビでは、若年層の就職・キャリアをテーマに多数の著書を発行し、転職をテーマにした漫画『エンゼルバンク』に登場する、カリスマ転職代理人のモデルにもなった海老原嗣生氏に、キャリアを考える理系学生に向けたメッセージを聞いた。雇用問題のスペシャリストが語る就職活動、学生が今取り組むべきことは。

インタビュー・理系ナビ編集部



理系のキャリアを考える 理系ナビ特別インタビュー 海老原 嗣生氏

## 理系学生は、自分の強みをしっかり理解すべき

してこないと時間ももったいない。語学力やハートを鍛えるのが目的なんてもってのほかですね。帰国後、地獄が待っています。

**日本国内の就職状況は厳しくなっており、海外を見据えたキャリア形成を考えることも必要なのではないでしょうか。**

就職については日本国内で十分だと思いますが。文化風習の違う環境に属することは想像以上に大変です。最近、日系企業が外国人留学生を積極採用しているというニュースがありますが、それがずいぶん曲解されて伝わっています。大手電機メーカーが1000名の外国人を採用するという報道がありました。そのほとんどは海外の現地法人の話でした。実際、サムスンやルノー、ノキアだって日本以上に小さな国の企業なのに、本社は自国民で固めている。センセーショナルな報道で必要以上に不安になることはありません。企業は日本人を見捨てていませんよ。

むしろ危険なのは「既卒3年間は新卒枠での応募可」といった情報で安心してしまふこと。既卒3年間も応募可能になったからといって、人気大手企業の採用基準が下がるわけでも、採用数が増えるわけでもない。現役の優秀層に既卒の

経験者層が入り乱れて競争がますます厳しくなるだけです。

**理系学生が就職活動に臨むにあたって心得るべきことはなんですか。**

先ほども話しましたが、非機電系の学生は専門外で生きていくことを選択肢として検討する必要があります。ただ、専門外のフィールドに出ても理系人材は優秀で、ビジネスに必要な素養を数多く備えていると僕は感じています。それは大きく分けると三つあって、一つは継続学習能力。一つの事象を追求し、継続的に学習・研究してきた経験や姿勢は文系よりも優れています。二つ目は物事を論理的に考えるロジカルシンキングの足腰がものすごく強い点。営業をやっても、売れない原因やお客さんの課題を追求して傾向から仮説を立てて解を導き出していく能力が極めて高い。三つ目は縦社会への順応性で、研究室の徒弟関係の経験があるため年功序列の組織に順応しやすい。理系の方はこの三つの強みがあることを忘れないでほしい。

専門外への就職を考えるのであれば早めに現実的な決断をし、理系の強みを把握してフィットできる環境を探してほしい。ロジカルシンキングは実験だけで活きるものではありません。営業や金融専

**理系学生にとって今の時期は、「進学か就職か、就職するにしてもどんな業界や会社にするか」など考えるべきことが数多くあります。この時期の理系学生へのメッセージを伺えますか。**

まず就職についてですが、機電系や化学系の学生に対してはそれほど言うことはないんですよ。彼・彼女らは昨今の就職環境でも専門性を活かした仕事に就けている。特に言いたいのは非機電系の学

生。就職状況は非常に厳しいのでキャリアについてもっと真剣に考えてほしい。これは進学でも同じで、なんとなく大学院行っても状況はもっと厳しくなるだけ。留学についても甘い考えなら、時間を無駄にするだけなので行かない方がいい。本気で海外の大学に行きたいのであれば、カーネギーメロンやスタンフォードといった一流どころで最先端の研究を

門職といった専門外のフィールドでどのようにロジカルシンキングを応用できるかを早めに考えてほしいですね。

金融やコンサル業界をはじめとして、専門外でも理系の素養を求めている業界は多いと私も感じています。

僕のお勧めはメーカーの営業職ですね。中堅機電メーカーは理系の営業職を渴望しており、重宝されますよ。半導体製造装置や光学機器メーカーといった優良企業に入ることが可能です。分野は違っても、少なからず理系としての知識ベースを活かせるフィールドをまず考えた方がいいですよ。

視野を広げる重要性は承知の上で、それでも専門性を活かした仕事に就きたいという学生はどうすればいいでしょうか。

中堅企業、もっと言えば小企業まで本気で探すことですね。バイオ・食品系で言えば、地方の食肉加工会社や町の和菓子屋さんなんかでも専門職を採用している。中日本冰糖という企業をご存知ですか？国内のガムシロップを9割方生産している隠れた優良企業です。本気でそのフィールドで働きたければ、探せばあるんですよ。

ただ、隠れた優良中小企業に入りたけ

れば早めに動く必要があります。時期が遅くなるほど、みんな中小企業にシフトしてくるのでそこでまた狭き門となってしまう。本気なら早めに情報収集することをお勧めします。

隠れた優良企業の探し方のコツがあればお聞かせください。

僕が教えている大学で生徒に勧めているのは「10年勤続OB・OGプロジェクト」と言って、大学の友人同士で就職課やゼミからOB・OGリストを集め、10年以上前のOB・OGに電話をかけること。「同窓会やるので来てくれませんか」と。もしOBが電話にできれば、そこは10年以上OBが勤続できている企業です。OB・OGがいるので採用確率も高い。3人くらいでやれば、けっこう「OBが勤続している企業」は見つかりますよ。

今の時期に学生がすべきことは何でしょうか。

二つあります。まず、コミュニケーション力の強化。コミュニケーションを苦手としている理系は多いですが、半年間営業やれば誰でも上達しますよ。たった半年の差です。この差を学生のうちに縮めてほしい。研究室ばかりにこもっていないで、いろんな人と会って話す練習をしてください。いろんな人と普通に話すだ

けでも人見知りが取れてうまくなる。それだけでも十分です。

もう一点は、大学での専攻分野は、長い人生の中のたった数年間に偶然巡り合ったものの一つ、くらいに考えてほしいということ。世の中にはもっといろんな世界があるのに、専攻だけが自分の選択肢だと思いついて入る人が多い。自分に向いているものや、好きになれるものは他にも絶対にあるはず。マイケル・ジョーダンだってほんとに好きなのは野球だったように、好きなものと向いているものは違います。

アップル社のスティーブ・ジョブズは「20年後の目標を設定し、逆算して5年後10年後の目標を設定するようなキャリアプランニングはすべきでない」と言っています。なぜなら「人生は偶然の積み重ねであり、そんなに思い通りにならない」から。その代わりにすべきは「目の前の仕事はチャンスととらえ、全力で取り組む」と「夢をあきらめない」こと。そうすれば必ず夢に近づいていくはずですよ。

最後に理系学生に向けたメッセージをお願いします。

「就職活動に向けて、サークル活動や留学をした方がいいのでしょうか」と言う学生がいるが、そういう問題ではない。企

業はなぜ上位大学・運動部の学生を欲しがるかを考えてみてください。上位大学に入れるのは、地頭が良いか、継続学習ができる人、もしくは、要領がいい人。運動部は「ストレス耐性」と「体力」があり、「集団行動」ができる人。

主に企業はこの6点を評価しているからです。これら全部とは言わなくても二つくらいあれば企業でやっていけるので、これらの力をいかにして鍛えるかを考えてほしいですね。サークルや留学はそれを鍛えるための手段であって目的ではない。目的を見極めた上で手段を選んでください。この6点と前述の理系のメリットはかなり重なっています。この強みを認識し、あとはコミュニケーション力を強化してください。

海老原 嗣生  
えびはら・つぐお

●近著紹介

HRコンサルティング会社「株式会社ニッチモ」代表取締役、株式会社リクルートエージェントのフェローとして同社発行の人事・経営情報誌「HRmics」の編集長も務める。漫画「エンゼルバンク」に登場するカリスマ転職代理人、海老沢康生のモデル。「学歴の耐えられない軽さ」(朝日新聞出版)、「『若者はかわいそう』論のウソ」(扶桑社新書)、「2社で迷ったらせび、5社落ちたら絶対読むべき就活本」(プレジデント社)など雇用・就職関連の著書多数。



「もっと本気で、グローバル経営」  
東洋経済新報社